

インドネシアでプラさんぽ



プラごみを拾う、集める、リサイクルする...

様々な角度でローカルにプラごみを扱う人たちにお会いしてきました

インドネシアでのごみのリサイクルのしくみはまだまだ発展途中。地域によってごみ処理の流れは異なるようですが、国内にはリサイクル施設が少なく、多くのごみは直接埋め立てられています。「3R」などの言葉も広がっていますが、ポイ捨てる人もまだまだ多いのが現状です。

行政でできないなら自分たちでやろう、とローカルなプラスチックのリサイクルに取り組む人たちをめぐってきました。

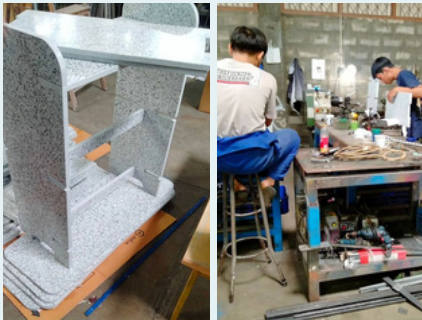


Sungai Watch

(スンガイウォッチ)

山のように積み重ねられた未分別のごみ。これらは、一週間ほどの間にバリ島で拾われたごみです。スンガイウォッチは毎週島内各所でごみ拾いやごみに関するワークショップを行い、地域の美化に努めています。多い時では週に5回ほど集まるこれらのごみは手作業で分別して最大限リサイクル。多くのボランティアが関わる、地元愛にあふれる場所でした。

リサイクルする



Precious Plastic Bandung

(プレシヤスプラスチックバンドン)

ジャカルタ近郊の都市、バンドンにあるプレシヤスプラスチックバンドンは、プラごみから家具や企業のノベルティを製作するほか、プラごみ加工の機械も開発・生産しています。何人もの人が作業をする工房を見学しながら、機械のことや材料のことなど、たくさんのお話をいただきました。

拾う

集める



中部ジャワの古都、ソロで訪れたのは、プラスチックごみの中間処理業者。家庭からのごみなどを集める人々からプラスチックを買取り、さらに分別・洗浄・破砕して再製品工場に材料として販売します。私が訪問した際は、破砕された飲料の小さなプラスチックが天日干しされていました。「プラスチックの値段は上下するから、時期を見計らって売るのが難しいよ」と商売人のオーナーは楽しそうに語ってくださいました。

Wedoo (ウイドゥー)
バリ島にあるWedooは、機械を作るのが得意なプレシヤスプラスチック拠点です。プラごみを加工する機械は、バリ島各所をはじめ、国内外に送られていくそうです。大きな機械のほかにも、自転車をこいでプラごみを破砕する、ワークショップ用の機械もありました！プラごみ製の板から作られたエレキギターでパチリ。



Yayasan Kaki Kita Sensusantra

(ヤヤサンカキキタ スヌサンタラ)

この団体の中心となる事業は、脚を切断した人の治療や義足の制作・訓練です。プラスチック再生に取り組み始めたのは約3年前。新型コロナウイルスの流行で寄付金が減少したため、再生プラ製品づくりを始めたというわけです。家具のほか、安価で長持ちする義足も製作しています。働く人も多くが義足ユーザー。障害者への偏見が根強い当地でのこのような活動、最高にクールですね。



体現する

Desa Potato Head (デサ ポテトヘッド)

バリ島随一のおしゃれなリゾートホテル、デサポテトヘッドは、ごみ削減に本気です。ペットボトルは持ち込み禁止、生ごみが多く出るビュッフェは廃止。どうしても出てしまうごみは、工夫を凝らして「セクシーに」リサイクルしています。ワインボトルと廃油から、キャンドルを作ったり。中庭にそびえる怪人「ポイントマン」もプラごみ製です。ごみ削減の取り組みは、無料のごみツアーでじっくり紹介してもらえます。プラごみと牡蠣の殻から植木鉢を作る体験もできましたよ。

